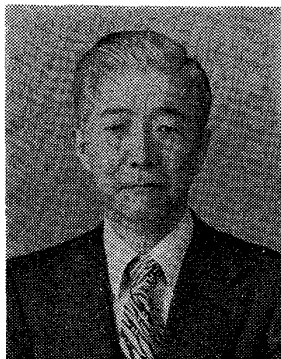


.....
随 想



Transactions ISIJ に原著論文の寄稿を

中 村 正 久*

Transactions ISIJ では、明年の1号 (Vol. 20 No. 1) から本会の春秋の講演大会の予稿を英文にしたものを掲載することにいたしました。Vol. 20 では過渡的措置として No. 1 と 2 に本年春の第 97 回大会の分を、No. 3~8 に本年秋の大会の発表を掲載する予定であります。すでにご投稿の勧誘が参つていふことと存じますのでよろしくお願い致します。今秋の大会の分からは、講演大会に申込みいただいた時点で投稿をお願いし、春の大会の分を No. 9 から翌年の No. 2 までに、秋期大会の発表は No. 3 より No. 8 に掲載していく予定であります。講演大会の発表は最も新鮮な情報であります。わが国鉄鋼の科学技術の最先端の情報は、必ずや広く各国からの注目をうけるに違いありません。奮つてご投稿下さいませようお願いいたします。また、過渡期でありますので、続報の進んだ発表の場合は今年の発表だけでは内容を伝えにくいものもあろうかと存じます。そのようなときは Research Note などの小論文としてまとめてご投稿下さいませようお勧めいたします。後程も述べますようにご寄稿の勧誘はあくまでも便宜的に行つていふものでありますので、自由投稿を歓迎いたします。

本会が Tetsu-to-Hagané Abstracts から Tetsu-to-Hagané Overseas へ移行を行い、欧文誌の刊行に踏み切つたのは昭和 36 年でありました。さらに、39 年からは Transactions へ移行し、これが月刊誌となり本格的な論文誌となり今日に至つていふます。Overseas の創刊号以来の編集委員の一人でありましたものとして、鉄と鋼の巻頭の紙面をいただきましたので、そのほかひとこと述べさせていただきます。

Transactions に掲載されます論文は、Vol. 18 (1978) を例にとりますと鉄と鋼からの転載が 57%，その他の国内誌からの転載が 15%，原著論文は外国からの投稿を含めてわずかに 28% に過ぎません。論文誌 Transactions である以上全部が原著論文であるべきであります。鉄と鋼やその他の国内学会誌、会社研究報告誌などから寄稿を勧誘して、和文で発表された論文で外国に紹介すれば反響があるであろうと思われるものを、委員会が選択して英文にさせていただいて掲載していふますのは、Transactions への原著の投稿が少ない現状でありますので、便宜的に行つていふことに過ぎません。

和文で発表されたものを Transactions へ英文で掲載しますことは以上のような理由で認めております。逆に、海外を含めて英文で発表されたものは鉄と鋼に和文で投稿されても、オリジナルでないことを理由に掲載を拒否されるであります。これはたいへんおかしな話で、ただ一つの原因は Transactions が原著論文だけでは成り立たないからであります。漸次原著だけの論文誌としての Transactions を刊行したいのであります。そこで、Transactions へも掲載のご希望があれば、鉄と鋼と Trans. の両方に同時にご投稿いただきたいのであります。忙しいのにそんなことができるか、とおつしやらずにぜひお願いしたいものであります。現在は時間的なずれができるだけ少ないようにと、鉄と鋼への掲載が決定された時点で Trans. への投稿を勧誘してあります。ぜひオリジナルを Trans. へご投稿下さいませよう願ひするしだいでありませう。

鉄と鋼はすでに 65 巻を数え、古くからわが国の鉄鋼の科学と技術の論文誌として世界的に定評がありますので、海外にも広く出ていふます。非常に古い歴史を持つていふます。外国の技術者、

* 編集委員会欧文会誌分科会幹事、長岡技術科学大学、東京工業大学教授

研究者に日本文の論文は理解されにくいとはいえ、評価が高い論文であれば Synopsis と図表の英文を見れば大筋はわかります。それが1年も2年も経つたのちに、理解が容易な英文で発表されましても、その価値は半減していることになります。このようなことが本会としてかなりの重点を置いて Transactions を刊行しているのにもかかわらず、この何年間か、少しずつは読者が増えてはいますがごく僅かでありまして、約 1000 部の発行に止まっている事情になつています最も大きな原因であると思われます。くわしく調査してみないとわかりませんが、海外に出ている部数という点からでは、Transactions より鉄と鋼のほうが多いのではないのでしょうか。

それでは、そのような Transactions の出版は止めてしまえとの議論が出るかも知れません。ところがそうしてしまいますと、今でも行われていることですが、海外で鉄と鋼がどしどしほん訳されて、しかも、私どもがガリ版刷りと呼んでいるものでありますから、とくに写真などは不鮮明な印刷でありまして、商売にされています。英文についての著者確認や、著者校正といった手続きもまったくありませんから、正確に内容を伝えているかはなほだ疑わしいものであります。このようなものが世の中に流れることを、論文の著者として平静でいられますでしょうか。そのようなことが起こらないように、本会も著作権の設定をしようとして鋭意準備を進めていまして、恐らく明年度には実施されることになるかと存じます。また、このようなことが行われなくするための最もよい手段は、わが国の重要な鉄鋼関係の論文あるいは技術報告が、きちんとした形で、しかも洩れなく Transactions に掲載されることを世に示すことにあると存じます。

最近の若い技術者、研究者のなかには英語に堪能な方が増えて参つております。そしてせつかく英文で書いたのだからサーキュレーションの悪い国内発行のものよりずっと有効であるとお考えから、外国誌に直接投稿される方が多くなつていように見受けます。残念ですが上述したような事情でありますので、現状ではやむを得ません。しかし、本会会員諸学兄におかれましては、Trans. を成長させていただきたく存じますので、Transactions のほうへも形を変えるなどをしてご投稿下さいますようお願いいたします。

どうか、Transactions ISIJ に原著論文のご投稿を。